平成 17 年度

「評議員会」報告書

平成１８年３月

福井工業高等専門学校

ま　え　が　き

平成１６年４月をもって従来の国立高等専門学校は独立行政法人「国立高等専門学校機構」となり，本校も昨年，創立４０周年を済ませて次の４０年に向けての新しい一歩を踏み出した。国立高等教育機関は，国民の税金で運営されている以上，各機関の運営状況を外部に公開し，その内容を国民に積極的に説明する責任（Accountability）が科せられている。本校は，１昨年，日本技術者教育認定機構（JABEE）から，本校の教育カリキュラムが認定されJABEE認定校となったのに続いて，昨年，「大学評価・学位授与機構」による認証評価を受審し，改善を要する点はないとの評価を受けた。

本校の中期計画では，学外有識者により構成される評議員会を設置し，教育及び研究に関する外部評価を受けるとともに，学校運営に関する意見を聴取すると謳っており，その趣旨に添って平成１８年３月２７日に平成１７年度第１回評議員会を開催した。本校では「福井高専教育点検・改善システム」として，学習・教育目標，教育方法，教育環境，学習保証時間，教育達成度に，計画(Plan)，実施・運用(Do)，点検・検証(Check)，見直し・改善(Action)のいわゆる PDCA サイクルを常時稼働させており，評議員会はこの中で点検・検証の重要な機能を果たすものである。

平成１７年度評議員会では，本校の概要説明を校長及び４名の副校長が行った後，平成１６年開催の第１回評議員会での指摘事項の教育・研究改善事項の説明，本校の中期計画・JABEE の説明に続いて，教育・研究環境の視察をお願いした後，討論，提言，講評を頂いた。席上では熱心な討論を賜るとともに，それぞれの立場から本校教員の目には写らない種々の事柄について，耳の痛いご指摘や励ましのお言葉を頂戴した。本校では，これらの評議員各位からのご意見を生かして，法人化の目標とされる福井高専の個性化，活性化及び高度化を図り，世の中で必要とされる福井高専を目指してより一層の努力を積み重ねる覚悟である。忌憚のない，貴重なご意見を賜った評議員各位に深甚の謝意を表したい。

福井工業高等専門学校長
駒　井　謙　治　郎

評議員会で出された意見の総括

- 科学研究費が全国高専でトップクラスを維持している理由を伺いたい。
- 福井高専が位置する丹南地区からの学生が４割近く在籍する，非常に地域に密着した学校である。
- 中学からの入学希望者には２つの傾向，１）全日制高校に入りたいが，そのための受験のトレーニングと考える生徒，２）将来を見定めてきちんとした信念を持って受験する生徒，がある。
- 前者の受験生は，大学へのバイパスとして高専を受けている傾向があり，そのため，高専はキャリヤ教育をきちんと教育課程の中に取り入れる必要がある。一方，後者の受験生は推薦制の生徒に多い。
- 工学基礎コースは中学にとっても非常に有り難い制度である。
- 地元の鯖江市，越前市，商工会議所等と地域連携協定を締結し，伝統産業・地場産業支援を積極的に展開されていることにお礼を申し上げたい。しかし，丹南地域を中心とする地場産業への就職者が非常に少ないのは寂しい。次世代を担う若者が地元に対する関心が薄いのは寂しい限りであり，地元に定着するよう指導いただきたい。
- 「さばえめがねワク Waku コンテスト」全体では１０００件近くの応募があったのに，地元鯖江からの応募はゼロに等しいのは何故か。地元鯖江の地場産業であるめがねに対する関心が低いのは問題である。出前授業も越前市に偏っており，鯖江市は鯖江中学１校だけである。

講評の総括

- 全体として良く努力している。
- 国際化がますます重要となりつつあり，海外インターンシップを実現されたい。
- 地元に密着した高専であることを実感として感じており，今年度から始まった緊急メール配信システムに感謝したい。
- 担任制度，副担任制度等，生活指導の充実を図っているが，家庭的にも不安定な生徒が居るので生徒の指導に今後とも努力されたい。
- 丹南に密着した技術支援をしているが，福井工業技術センターとも連携を取って推進されたい。
- 「何故丹南はものづくりが栄えているのか，それは，福井高専があるからだ。」に是非ともなって欲しい。
- 人件費削減が教育研究の低下，社会貢献の低下にならないよう工夫して努力されたい。
- 福井大学とも連携協力を強められたい。

目　　次

まえがき

評議員会で出された意見の総括・講評の総括

Ⅰ．福井工業高等専門学校評議員会規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ．評議員委員名簿・・・　2

Ⅲ．評議員会日程・・・　3

Ⅳ．本校出席者名簿・・・　4

Ⅴ．議　　事・・　6

Ⅵ．講　　評・・２２

Ⅶ．参考資料・・２７

Ⅰ．福井工業高等専門学校評議員会規則

（設置）

第１条　福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，広く学外有識者の意見を聴くための組織として，福井工業高等専門学校評議員会（以下「評議員会」という。）を置く。

（任務）

第２条　評議員会は，本校の教育研究目標・計画，自己評価，その他本校の運営に関する重要事項について，校長の諮問に応じて審議・評価し，及び校長に対して助言又は勧告を行う。

（組織）

第３条　評議員会は，１０人以内の評議員で組織する。

２　評議員は，本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が委嘱する。

３　評議員の任期は，１年とし，再任を妨げない。ただし，評議員に欠員が生じた場合の後任の任期は，前任者の残任期間とする。

（議長）

第４条　評議員会の議長は，評議員の互選により定める。

（評議員会の開催）

第５条　評議員会は，校長が招集する。

２　評議員会は，年１回以上開催するものとする。

３　評議員会は，必要に応じて関係者の出席を求め，その意見を聴くことができる。

（守秘義務）

第６条　評議員は，その役割を遂行するうえで知り得た情報を，正当な理由なく漏洩してはならない。

（庶務）

第７条　評議員会の庶務は，庶務課が処理する。

附　則

この規則は，平成１６年５月１３日から施行する。

Ⅱ．評議員委員名簿

（高等教育機関の教員等及び経験者）

児　嶋　眞　平　　福井大学長

（高等教育機関の教員等及び経験者）

小　島　　陽　　長岡技術科学大学長

（本校の所在する地域の教育関係者）

辻　崎　正　則　　鯖江市中学校校長会会長

（地方自治体等研究機関の研究者等）

前　田　政　見　　福井県工業技術センター所長

（産業界の有識者）

野　村　一　榮　　鯖江商工会議所会頭

（産業界の有識者）

本　島　正　勝　　信越化学工業（株）磁性材料研究所長

（報道機関の有識者）

渡　辺　数　巳　　（株）福井新聞社　論説副委員長

Ⅲ．評議員会日程

１．日　時　　平成１８年３月２７日（月）１０：００～１５：００

２．場　所　　福井工業高等専門学校　会議室

１０：００【開　会】 校長挨拶，出席者の紹介，委員長選出，日程説明
１０：１０　議　事
　　１　本校の概要等
　　（１）高専の最近の状況等について …… 校　長
　　（２）本校の概要について …… 副校長（教務・学生・寮務主事，専攻科長），JABEE 委員長
　　（３）平成１６年度第１回評議員会における教育・研究改善事項について …… 副校長（教務主事）
　　（４）福井工業高等専門学校の中期計画進捗状況について …… 副校長（教務主事）
　　（５）自己点検・評価報告書について …… 認証評価委員長

１２：００　　－　昼　食　－　（校長会議室）

１２：４０　　２　教育・研究環境視察
　　【ロボコン製作現場，地域連携テクノセンター（伝統産業支援室，地場産業支援室）】
１３：１０　　３　全体討論・提言
１４：３０　　４　講　　評
１５：００　【閉　会】 校長謝辞

提示資料

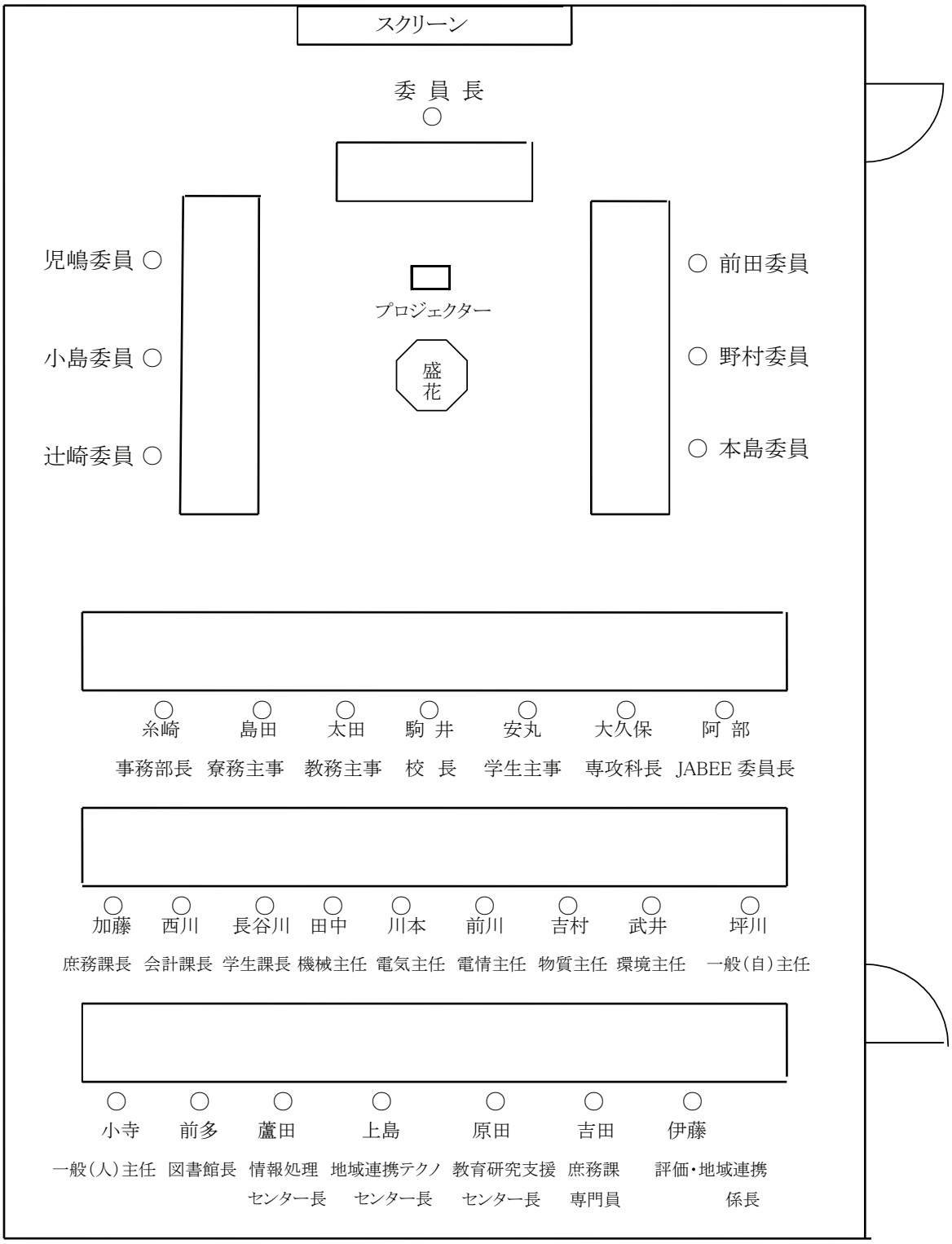
（１）平成１６年度第１回評議員会における教育・研究改善事項
（２）福井工業高等専門学校中期計画進捗状況
（３）自己点検・評価報告書
（４）高等専門学校機関別認証評価評価報告書
（５）福井高専「環境生産システム工学」教育プログラム（JABEE パンフレット）
（６）学生便覧（平成１７年度版）
（７）学校要覧（平成１７年度版）
（８）シラバス（本科，専攻科）（平成１７年度版）
（９）専攻科パンフレット　2005
（10）教員総覧　2005
（11）福井高専の歩き方　－2006　College Guide－
（12）ＪＯＩＮＴ　2005 －地域連携テクノセンター活動紹介誌－
（13）学生指導担当職員研究会・ボランティア活動報告書（平成１７年度版）
（14）平成１７年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」パンフレット
（15）図書館利用案内　2005

Ⅳ．本校出席者名簿

氏　　名	役　　職
駒　井　謙治郎	校　長
太　田　泰　雄	副校長，教務主事
安　丸　尚　樹	副校長，学生主事
島　田　　茂	副校長，寮務主事
大久保　　茂	副校長，専攻科長
阿　部　孝　弘	JABEE 委員長
田　中　嘉津彦	機械工学科主任
川　本　　昂	電気電子工学科主任
前　川　公　男	電子情報工学科主任
吉　村　忠與志	物質工学科主任
武　井　幸　久	環境都市工学科主任
坪　川　武　弘	一般科目教室（自然科学系）主任
小　寺　光　雄	一般科目教室（人文社会科学系）主任
前　多　信　博	図書館長
蘆　田　　昇	総合情報処理センター長
上　島　晃　智	地域連携テクノセンター長
原　田　　望	教育研究支援センター長
糸　崎　喜　一	事務部長
加　藤　和　人	庶務課長
西　川　岩　雄	会計課長
長谷川　篤　志	学生課長

会　場　図

於：管理棟会議室


スクリーン
委 員 長
児嶋委員
小島委員
辻崎委員
プロジェクター
盛花
前田委員
野村委員
本島委員
糸崎 事務部長
島田 寮務主事
太田 教務主事
駒井 校 長
安丸 学生主事
大久保 専攻科長
阿部 JABEE 委員長
加藤 庶務課長
西川 会計課長
長谷川 学生課長
田中 機械主任
川本 電気主任
前川 電情主任
吉村 物質主任
武井 環境主任
坪川 一般（自）主任
小寺 一般（人）主任
前多 図書館長
蘆田 情報処理センター長
上島 地域連携テクノセンター長
原田 教育研究支援センター長
吉田 庶務課専門員
伊藤 評価・地域連携係長

Ⅴ　議　事

○校長挨拶

本日は評議員の皆様方におかれましては，まことにご多忙中，第１回福井工業高等専門学校評議員会にご出席いただき厚く御礼申し上げます。

本校の取り決めによりますと，年１回以上評議員会を開催することになっておりまして，本来もう少し，このような年度末にやるべきではなかったのですけれども，平成１７年度は本校の創立４０周年記念事業，ちょうど４０年に当たります，それからこれは本校にも義務づけられております大学評価学位授与機構の認証評価の昨年末の受審等でどうしてもこのような日程になりました。本日，午前，午後と本校のその後の改善の成果についてご報告申し上げますので，種々忌憚のないご意見を賜りまして，今後の本校の運営に役立てたいと考えております。どうかよろしくお願いいたします。

○出席者の紹介

各委員から自己紹介を行った。

○委員長の選出

委員の互選により，児嶋委員（福井大学長）を委員長に選出した。

○日程説明

司会者から日程説明があった。

○概要説明

福井工業高等専門学校の概要等について次のとおり説明があった。

※説明に用いた資料は参考資料として添付。［２７～４０頁参照］

（１）高専の最近の状況等について（駒井校長）

（２）本校の概要について

・教務関係事項
（太田副校長（教務主事））

・学生関係事項
（安丸副校長（学生主事））

・寮務関係事項
（島田副校長（寮務主事））

・専攻科関係事項
（大久保副校長（専攻科長））

・JABEE 関係事項
（阿部 JABEE 委員長）

○平成１６年度第１回評議員会における教育・研究改善事項

平成１６年度第１回評議員会（平成１６年９月７日）における教育・研究改善事項について，太田副校長（教務主事）から説明があった。

○福井工業高等専門学校の中期計画進捗状況について

本校の中期計画に対する進捗状況について，太田副校長（教務主事）から説明があった。

○自己点検・評価報告書

自己点検・評価報告書について，太田認証評価委員長（教務主事）から説明があった。

○教育・研究環境視察

ロボコン制作現場及び地域連携テクノセンターの視察を行った。

【ロボコン制作現場】

【地域連携テクノセンター
（伝統産業支援室，地場産業支援室）】

○全体討論・提言

（児嶋委員長）

それでは全体討論と提言に入り，その後に講評をいただきまして，３時頃にこの評議会を閉会にさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。まずは全体討論と提言について入りたいと思います。午前中，校長先生を初め太田主事，あるいはそれぞれの主事の方から縷々説明がありましたが，大きな改革，改善に非常に意欲的に取り組んでおられるということがよくわかり，非常に私もびっくりするといいますか，感心するといいますか，感動したといいますか，大変なご努力であるということがわかりました。いかがでしょう。全体討論としてその辺の改革の進め具合ですとか，あるいはこれからこういう風にしたほうが良いのではないかというようなご提言をいただければありがたいと思います。まずは認証評価を受けられ，全ての項目について優秀であるという評価を，また優れた点があるということをお受けになりましたが，認証評価はいかがでしょうか。小島先生どうぞ。

（小島委員）

実は長岡技術科学大学も認証評価を受けまして，それから，私自身も高専の認証評価の評価委員として２，３の高専をまわってきました。先ほどの太田先生のご説明では，改善すべき点について何も指摘がないとのことでしたが，評価委員が来られた時に内々ででも改善すべき点について話はありましたか。

（太田教務主事）

ありました。シラバスに授業内容の記入欄がありますが，若干２人ほど，授業内容が書かかれていなかったのでそれを書くようにとの指導がございました。

（児嶋委員長）

ほとんどたまたまと言うとなんですが，たいしたことではないですね。指摘事項がないのは滅多にないことですか。

（小島委員）

やはり何か探しては少し書きます。

（児嶋委員長）

それがないということはたいしたものなのですね。

（小島委員）

あと，全体としては，我々もそうですが，こういう評価，それからＪＡＢＢＥも含めて若干評

価疲れをしているようですね。児嶋先生のような総合大学の場合にはともかく，高専を始め我々小さなところだと普段教育研究を良くやってくれる人が担当することになり，いろんな意味での負担が増えてしまうのが現状です。これは我々のオーダーの話ではないですが，国でもう少し考えてくれないかと思いますね。

それから少し違う話になりますが，専攻科生の学位授与機構での学士号の認定ですが，例えばこのように JABEE をきちんと行っているのならば，もう高専に学位授与まで任せるようにするとかしないと何のためにやっているのか疑問です。全く違う筋から行うべき話だとは思いますが。我々も JABEE 等いろいろ受けましたが，やっぱり大変なことですからね。

（児嶋委員長）

大変なご努力をいただいたのはよくわかります。自己的な評価もたくさん，中身というか，本当に担当者がお疲れになって，いろんな研究教育に支障がないようにと心配するくらいです。大変立派なものだと思いますね。いかがでしょうか。この認証評価について，前田さんどうぞ。

（前田委員）

この報告書を見させていただき，そして前の小島先生の意見でもないですけれども，改善指摘する点は特にないという評価を得られたということですが，この基準１～１１までの中で，報告書の文言にない形で，こういうところは特徴的で良かったということはありませんでしたか。

（太田教務主事）

そうですね。JABEE とか機関別認証評価は訪問調査や実地検査がありまして，その時，福井高専の特徴的なものは，ものづくり教育と産官学の共同研究，この２つが進んでいるとのお褒めをいただきました。ものづくり科学でものづくり教育を行い，それとふくい産業支援センターさんのおかげによる産官学共同研究の推進，それに基づく科研費の全国１位。やはり科研費の全国１位というのはデーターとして出てまいりますので，その研究とものづくり教育この２つが進んでいるということを言われました。

（前田委員）

入学生の獲得ということも含め，独自性というか，産業人材の教育を行うという努力の中での独自性というのを発揮されていくことが重要だと思います。そういう意味でちょっとお聞きしたわけでございます。

（小島委員）

今，話に出ましたいわゆる科研費が全国の高専の中でトップクラス。数年前にトップになった時もありましたね。

（太田教務主事）

今もトップです。

（小島委員）
そうですか。それでそのトップになった理由というか，高専の中で何をどんな風に努力をされたか，全く個人の結果ではないわけですよね。高専として申請をたくさんしようとか，たぶん何か目標を立てられていると思うのですが，具体的には何か・・・。

（児島委員長）
具体的な取り組みがあったと思いますね。その辺はどうでしたか。

（駒井校長）
立てました。まず第１に，教員は全員申請を出させました。現在は９０％近く。これは継続を入れてですが，１００％は無理でしたが，９０％という数値はもちろん全国高専で１番高いですね。私が赴任しました時は５０％以下，３７％～３８％しか出されていなかったのですが，これはもう出さないことにはどうしようもない。当たらないわけです。第２点は，今は良くなったのですが，初年度の１５年度に赴任した時は６０件以上を，まるまる２週間かけて全部を査読しました。私流で先生方には悪いことをしたと思うのですが，当たりやすいという書き方があるのです。科研費も明らかにあります。書き方や表現法それに申請課題の書き方，これはもう校長の独断で，最後の採択は先生方にお任せましたが全通，私の方で行いました。それが１６年～１７年度に上昇した理由ではないかと思いますが，基本的には先生方にその素質があったわけで，やはり前校長，前々校長が努力された人事が直接に，全部じゃないでしょうけどうまく行われた結果です。そんな１年，２年で変わるものじゃない，教員の素質の問題です。だから全体として福井高専は５年～１０年といった人事が，先生方が来ていただけるような配慮があって，たまたまこういう結果になったと考えています。

（児島委員長）
たいしたものだと思いますね。

（小島委員）
我々，私のところも教授会等で言うのですが，科研費というのは必ずしも分野だけじゃないですからね。どのような分野でも必ずあるのだから必ず申請できるはずだと。しかも，いずれ我々教員の評価の中に科研費というのは非常に大きなウエートになりますから、やっぱり努力されて是非堅持していただきたい。

（駒井校長）
一人でできるわけじゃないし，非常に大きいです。

（児島委員長）
私も進んでいるのがたくさんなので，どこが悪いという指摘するところがあまりないのです。確かに良くやっておられると感心するばかりです。何かこうしたほうがいいのではないかとかいうようなご指摘があればと思いますが，教育の認証評価以外にも，業務的に何かありますか。
辻崎先生，例えば入試のことですね。先ほどちょっと広く入試を拡大するというようなお話が

ありましたが，そのようなことに関することで何かコメントをいただければと思います。実は私のところはちょっと違いますが，今年工学部の受験生が増えたのは福井大学ともう１大学あるのです。それはどうしてかというと，実は名古屋で入試を行ったからなのです。名古屋はどうかということでね。というのは，年々，名古屋の受験生がだんだん減ってきまして，東海地区へ行ったほうがいいのではないかということで前期試験を行ったのです。そしたら工学部の受験生の半分以上が名古屋で受けましてね，受験生を非常にうまく確保することができました。しかも名古屋の受験生は非常に成績が良く，合格率も高いということで良い受験生を確保できたと喜んでいるのです。今回例えば受験の場所を嶺南でおやりになるとか，そのような計画はあるのでしょうか。そういうことも含めて辻崎先生いかがでしょう。何か入試のことでも。

（辻崎委員）

そうですね。この学校要覧を拝見しまして，現在の１７年度の５月１日現在の在籍数を見てみますと，丹南地区の中でも特に鯖江市と武生市の在籍生徒数が２９５名，だいたい３割近くを占めているわけですね。もう少し域を拡げますと，丹生郡南越前町などを含めますと３７０名が本科に在籍しているということになりますけれども，その全て，４割近い学生がこの地域から来ているといえます。そういった点から，非常に地域との密着教育の高い学校だということは，それなりに高専は地域に対する評価が高いのではないかと思っています。それと今度は，今後，現状またはやや増加傾向にあるか心配される受験倍率の問題を見てきますと，今いったような受験生の便宜というものを図られるというのは，増やすきっかけだと思います。ただ最初の説明の中に滋賀県の方まで出向いて説明に行かれて，そちらの方に受験会場を設置したのですね。そういった点では私は非常に大きな努力をしたと思います。

だから変な話ですが，中学校側の立場からすれば高専の入学希望者というのは，２つの傾向があるのです。生徒は全日制高校に入りたいが，一つの受験機会をもう１回増やそうと，トレーニングみたいな感じで受ける生徒。それから，将来の自分はこのままでいくのだというきちんとした信念を持って受けるという生徒。そういった２つの傾向。私個人的な見解としてはそれがあるのです。前者の方については，県立高校のトレーニングのような形で受けるとなると１２月前後に毎年県教委が発表する県立学校の定数と微妙に左右されることもあるのかなと，今思いが至っております。それは少子化に伴って県立高校の定数が左右されますので，１つの調節みたいな形をもっております。極端にドーンと上がったり下がったりするということは多分ないとは思いますが，受験する生徒の中には２つのタイプがあると思います。

そういう中で私が本当に思うのは，これは高専の責任とかそんな問題ではなく，もちろんそれは義務教育の関係者が充分これから考えていくことなのでしょうが，キャリア教育というものをもう少しきちんと教育課程の中に入れ込む必要があると思います。

なぜかというと，結局受験生の中には大学へのバイパスとして高専を続けている傾向が見受けられるからです。それは先ほどの説明の中にも進学者の潜在的な志望傾向があるとあったのですが，そういう傾向がやっぱりどこかにあるわけです。これは高専だけではなく県内の商業系とか工業系の高校についても同じことが言えます。ですから高校生や高校の方が，学校説明会に来る場合に必ず強調するのは，就職は何％，一方で大学，短大の進学率は何％ですよということなのです。これが必ず入ってくると思います。それを聞いて工業高校に行っても大学へ行けるのだという気持ちを親も子供も持っているのです。

だから，そういう中で高専というのは，非常に私は微妙な，親，子供にとって見れば本当の科学技術者養成のための大学としていくという方針と，子供とか親の本音の部分とマッチングが出来るかどうか。これは，今，私たちが最初に申しましたように，キャリア教育をいかに厳正化，それをしっかり果たすかどうかということが大きく影響しています。これは別に高専がどうのこうのという問題ではなく，ただ現実としてそういう考えがあるのではないかと思い，述べさせていただきました。

（児島委員長）
キャリア教育という意味では正に技術者教育ですから，そのある意味でリッチに行っていられるところですがね，高専は。ですからむしろキャリア教育には最もふさわしい教育の場であることは間違いないですね。

（辻﨑委員）
だから，私は高専に行ってこれをやるのだという生徒，これは推薦制の生徒の中に多いわけです。我々もそういう生徒の意思を確認して推薦しています。ですから推薦の中には，そういう信念を持って望んでくる人は多いはずですよね。

（児島委員長）
意欲的な生徒さんですね。

（辻﨑委員）
はい。ちょっと質問させていただいていいですか？
今年の実績でよろしいですが，今年学力選抜試験に合格され，合格通知を出した生徒の中から辞退者がおいでになったのですか。

（太田教務主事）
おりません。

（辻﨑委員）
１人もいなかった。なるほどね。それは素晴らしいですね。

（児嶋委員長）
１.８倍というと０.８倍の人は落ちるわけですが，そういう方は高校に行かれるのですか。

（太田教務主事）
そういう方は高校にいきますね。

（児嶋委員長）
発表があってから試験ですか。ある意味では青田刈りではないですが先取りしていることになりますね。でも合格したから高校を受けられないということではないのですね。

（太田教務主事）
合格しても受けられるのは受けられるのですが，そこは紳士協定といいますか，中学校さんと私どもの学校の信頼関係でございまして，中学校の進路指導でどちらかを受けてみろというようなご指導はされません。

（辻﨑委員）
それは我々の方で初めから親御さんの方に話をしてあります。

（児嶋委員長）
そうすると辞退者がないというのもわかりますね。それはむしろ紳士協定によってうまくいっているということですね。

（辻﨑委員）
なお工学基礎コーが昨年できましたが，これは我々にとっても非常にありがたい制度でございました。

（児嶋委員長）
（この制度を）他の高専が真似するところがありましたかね。

（太田教務主事）
今年２つ，３つぐらいございまして，東京高専でも同じようなことをやりました。

（児嶋委員長）
ああそうですか。正にパイオニアとしてたいしたものですね。

（太田教務主事）
最初におっしゃいましたが，入試会場は，もう何十年も前から福井高専と滋賀の会場で試験を行っています。
私どもも来年また別の入試会場を増やそうと考えてはいます。また関係の委員会で諮っていこうと思っているのですが，ただ高専の場合と大学の入試倍率はちょっと違うところがございまして，私どもはただ闇雲に倍率が上がればいいというわけではないのですが，おそらく中学校さんは倍率は低い方が良く，１倍ぐらいがいいのではないかと思ってらっしゃると思います。
倍率に関しましては，私どもよりも機構のいろいろな計画等に書いてありますが，機構はただ倍率を上げろとは言っていないのです。適正な倍率を目指せと言っているわけです。適正な倍率とはいったい何かというと，高専の倍率が１０倍も２０倍もあって入りにくいようでは社会のためになりません。あるいは０.５倍とか１.０倍を切りますと，これは世の中にいらないということですから駄目なのです。では，何倍が適正かというと，だいたい２倍が適正なわけです。１０年後ぐらいに２倍を保て，５年後にまず２倍を保てと言っていますが，２倍という数字はかなりきつい数字だと思います。全国の高専では併願をやっていて倍率がやたらと高いところがありますから，そういうところも入れての話だろうとは思います。やはり大学の場合と高専の場合と違う

ところは，大学は医学部など倍率の高いところもありますが，高校の倍率は藤島高校とか高志高校でも１.５倍です。現在私の学校は昨年が１.８倍，今年は１.７倍ですので，むしろ，自分で言うのも変ですが，まあまあの倍率ではないかなと思っています。これを下回らないようにしたく，倍率があまり下回りますと，入ってこられる方が相当誰でも入れるような状態になりますので，一定の倍率は必要なのですけれども，それを目指していこうというところであります。やはり滋賀会場で行っていますのは，滋賀県から福井まで受けにこられると前泊しなければいけないという滋賀県の中学生のご不便を考えてのことであり，やはり増やすならば，先ほどおっしゃった嶺南などが考えられるかもしれません。

何よりも私どもは，推薦入学で４０名中，１２名，あるいは１０名～１２名ぐらいですから，約３割を推薦入学で合格にしていまして，推薦で落ちました人は学力試験を受けられますが，その推薦人枠に本来なら中学校の校長先生にこの人物はといって勧めていただくわけですから，本来は全員採らせていただきたいところなのですが，どうしても枠がありますので致しかたないとこなのです。推薦入学も学力試験も中学校さんとの信頼関係のもとに今後とも行っていかなければならないかと，校長が申されることを言ってしまいまして恐縮しておりますが，そんなところです。

（児嶋委員長）

そうですね。

（太田教務主事）

工学基礎コースですが，今年はもう正式にその転科が決まりまして，４０名中１７名が転科を希望しまして，全員が希望学科へ行くことになりました。そうしますと４０名から増減が生じますので，１番少なくなる２年生の学科では３６名，それから多い学科で４５名になります。これは当初から機構，文部科学省から指導いただいた３５名～４５名の間に入り，これは関係先生のご指導があったのかもしれませんが，うまくすんなり収まったということです。全員の希望を出された方で，成績悪い方でも転科可能でしたので，あんまり嘘偽りがなく良かったなと我々は思っているところです。今おっしゃっていただきました意見に対する答は以上でございます。

（児嶋委員長）

そのコースが非常に順調にスタートして，良かったということですね。しかも結果が学生さんの希望どおり入れられてうまくいっているということですね。これからも私どもも益々うまくいくように期待したいですね。大きな障害はないと考えればよいのですね。

受験の試験の場所もあるいは小浜あたりで１か所，小浜はこれで見ますとほとんど０に近く空白地帯ですね。小浜，美方，敦賀はこっちの方へ来るのはあんまり不便じゃないと思いますので，小浜あたりへ出張されるというのは１つの方法かもしれませんね。今年，来年，再来年，２～３年後でもいいと思いますけれどね。

（太田教務主事）

よろしいでしょうか。小浜あたりへ入説明に行きますと，舞鶴高専さんが非常に近いところにありますので。

（児嶋委員長）
　ああそうですか，舞鶴高専さんですか。

（太田教務主事）
　舞鶴高専が向こうの小浜中学，小浜第２中学辺りへしきりに来ていらっしゃいます。

（児嶋委員長）
　なるほど。

（太田教務主事）
　小浜が地盤になっているところで，なかなか微妙な話ですね。戦国時代ではないのですが。
　上の方は石川高専がずいぶん本校を意識されているみたいです。小浜で試験をしますと舞鶴高専を刺激することになるのですけれども。

（児嶋委員長）
　ちょっとうっかりしていました。舞鶴高専を本当に忘れていました。微妙なところですね。そういう意味で滋賀県はある意味で空白地帯になっているのですね。

（太田教務主事）
　滋賀県は３つの高専。岐阜，舞鶴，福井，それに鈴鹿も一部草刈場みたいになっています。

（児嶋委員長）
　特に北の方はテリトリーだという感じですね。入試に関しては特によろしいでしょうか。他に何か，産学共同のことも非常に一生懸命やっておられる，しかもああいう地域連携テクノセンターですか，非常に積極的な取り組みが見られて去年よりもはるかにまた綺麗に整備されておられるので私も感心しました。しかもかなりの測定機器も充実していますね。あれもずいぶんお金をかけられたのではと思います。産学共同について野村委員さんいかがでしょうか。何かご意見などをいただければと思うのですが。

（野村委員）
　私の方はむしろお礼を言わなくてはならないのですが，昨年の５月に地域連携協定を高専と商工会議所とさせていただきまして，大変高専と地元の商工業が近くなったという感じで非常に喜んでいるわけであります。さらにこの伝統産業それから地場産業支援について非常に積極的に応援していただいておりますので，これも合わせてお礼を申しあげたいと思います。
　そこでどちらがどうというのではないのですが，この福井高専の歩き方という冊子を見せていただきましたら，この最後のページの１８ページに就職先が出ているんですね。これを見ますといわゆる地場産業，丹南地域を中心とする地場産業の就職者というのは非常に少ないのです。この竹内光学というのはたぶん眼鏡業界だと思うのですが，もうほとんど無きに等しいのですね。これだけ伝統産業，地場産業に力を入れていただいて，しかもその生徒の中には地元で就職したいという風な希望を得ておりましたわりにはちょっと寂しいという気がしますので，進路指導の

先生方に地元の良さというものをご理解いただきまして，是非地元に定着するように指導していただければありがたいと思います。

それからもう１つは，この冊子の最後のページの出前授業ですけれども，平成１６年度の出前事業ですかね，１番最後の４０９ペーシからちょっと後に載っているのですが，これは辻崎校長先生にも関係あるのですが，地元のいわゆる鯖江であれば鯖江中学，中央中学，東陽中学という鯖江の地元の中学校に対する出前事業というのが鯖江中学だけで，後は越前市の大虫小学校とか万葉中学校にかなり行っておられるのです。これはなぜだかわかりませんが，そういう点では実態とかけ離れている面があるという感じがします。

それから，これも辻崎校長に言わなければならないのかもわかりませんが，実は先般，３月２０日に「さばえめがねワク Waku コンテスト」というのを鯖江市商工会議所が高専にお願いしまして先生方で開催していただいたのですが，確か応募者が９２６通あったと思います。ところが地元鯖江は０に等しいのです。春江中学からの応募が確か２８８件，あとは岡本小学校でしたか，高専は確かに何件かありましたが，丹南高校が４件ぐらいで，地元の小中学校は０件です。

僕はそれを見てさっそく教育長のとこに行って，どうなっているのだと。地元，地元といいながら全然協力していない。どっちがどうかわかりませんよ。中学の地元の先生方が，高専とか眼鏡の地場産業に対してどれだけの関心を持っているのか，おかしいじゃないですか。眼鏡のデザインですよ，よその市町村からあるいは県外から応募者がいっぱいあるのに地元は０件でしょ。これはどこでどうなったのかわかりませんが，こんな馬鹿なことなら来年は考えなければならないというようなことを言ったのです。だから是非，これはどちらがどうと言われませんけれど，地元の中学校の先生方，あるいは小学校の先生方を全部含めて，地場産業ということに対してもう少し関心を持ってほしいなと思います。

せっかく高専の先生方の主催で「さばえめがねワク Waku コンテスト」をやっていただき，各学校へ全部通知も出されましたし，インターネットにも載せていただきましたので，もうそれ以上どうすることもできません。結局受け側なのだと思います。受け側と地元がかけ離れているという意味では，出前授業も関係ありますし，手前どもが悪いのかどうかわかりませんが，建前と違うような感じがしますね。

私はこれからある機会に少しその辺は指摘する必要あると思っています。おかげ様で我々経済界は，高専の先生方の力を借りながら非常に支援を行っているのでが，この次世代を担う若者が地元に対する，地場産業に対する関心が薄いことは寂しい限りなのです。我々としましては是非ひとつお願いしたいと思いますし，出前授業というのはなぜ鯖江中学校１校しかないのですかね，武生はいっぱいあるのですよ。鯖江中学校は確か２回ありましたが，越前市にちょっと偏っているのではないかと。そのへんはどうなのですか。

（太田教務主事）

ご指摘いただきありがとうございます。まず出前授業が越前市に偏っているということは確かに結果的にそうなっていまして，何とかしようと思っています。また鯖江は，鯖江中学校に偏っていますが，これは私だけでも１ヶ月に何遍も行っていますし，鯖江中学校の教室が空いていまして，鯖江ライオンズクラブの高野先生が中心になられて，３年生の希望者や有志が放課後に集まり，そこで国際的な話とか，高専の話とか，それから私が物理や数学，英語も教えてきましたけれども，そういうことで最近１か月，２回以上鯖江中学校で行っています。これはただ高野先

生にすすめられるままにこんなことになってしまいましたが，来年度は是非，中央中学校さんや東陽中学校さんにお邪魔しようと，今，計画を立てているところです。すぐそうしますと様々な中学校さんを中心にほとんど毎週のようにうちの先生が行くことになりますので，非常に私どもにとってもありがたいことと思っています。

現在，まだ教員がチームを組まずにやっていますので，そういう派遣するチームを組んで組織的にやらなければいけないと思っています。

出前授業は，インターネットなどを見られて，小学校さんや中学校さんなどから声がかかりますと行った結果がこうなっているのですが，今度，こちらからお品書きを持って歩きまして注文を聞いてまわろうという風に思っておりますので，鯖江方面に関しても，あるいは福井方面も今後ずっと進めていこうかなと思っております。

また，さっき辻崎校長先生にちょっとお言葉いただいきましたが，丹南の方が３割近い在籍者がいまして，福井新聞などで見ますと，毎年２回高校入学調べなどがありまして，それによると本校のキャッチフレーズというか言葉が，「丹南で人気の高専は」と書いてあるのです。福井では人気がないのですが，丹南では非常に理解していただいています。

高専という組織は４５年経った割にはまだまだ知られていなくて，大学の卒業生が１年間に１００万人出るのに対し，高専の卒業生は１万人しか出ないのです。そのせいかと思うのですが，やはり福井の方とか少し離れるとあまりわかっていない。本当に知られていないのですね。

私どももそういうことを知っていただく必要もありますけれども，先ほどの現代 GP とか地域連携協定のように，地域と鯖江市，越前市とやっていかざるを得ないし，入学者もまずこちらの方で増やさせていただきたいと思っています。そのためにはやっぱり出前授業を，鯖江中学校さんは去年から行き始めたところなので，是非，他の中学校さんにも広めていきたいなとそういう風に思っています。なお，提携中学校の話をさせて頂ましたが，実質的に鯖江中学校さんとそれに近いものになってしまいましたので，それを実質から入ってしまったのですが，今，是非お願いに伺おうかと思っているところです。

それと，会頭からおしゃっていただきました「さばえめがねワクｗａｋｕコンテスト」ですが，この間市役所の方からちょっと叱られまして，鯖江市民のお金で，市民の税金でそれを半分ぐらいまわして行うというのが「さばえめがねワクｗａｋｕコンテスト」なのに，鯖江市からほとんど応募がないということは，鯖江の市民が何か他の方のためにお金を払っているみたいなことになりますから，是非，何とかしようという風に言われ，これはその中学校さんや小学校さん，高校の責任というよりも私どもの責任だと思いますので，来年の「さばえめがねワク Waku コンテスト」は鯖江市役所さんにお約束したのは，私どもから鯖江の小中学校をちょっと廻りまして，それで「さばえめがねワクｗａｋｕコンテスト」の説明とか応募の依頼を，今度キャラバン隊のようなものを組んでやらせていただく。まずその眼鏡は「さばえめがねワクｗａｋｕ」というぐらいですから，鯖江の小中高から０件とか数件では申し訳ないので，鯖江高校さんもありますし，丹南高校もありますので，是非とも地元でもっとアイデアを増やして来年は１,０００件以上を目指しますが，まず地元から増やしていきたい，そういう計画を立てているわけです。また今のままの形でなく，マグネットコンテストと同じように優秀作品を実際に作るとか，あるいは特許などそういう風なもう少し進めた形で，「さばえめがねワクｗａｋｕコンテスト」をやっていこうと思っているところです。

以上でございます。

（児島委員長）

ありがとうございました。今，出前授業も本当に学生さんを確保する意味で大変重要なことだと思いますので，どうか，それこそ辻﨑先生をはじめ中学校の校長先生の連合会とのお話し合いとか，あるいは小学校の連合会との話し合いとかを通じて，もう少し太いパイプを作っていただくといいと思います。「さばえめがねワクｗａｋｕコンテスト」も同じかと思いますけども。

ただやっぱりできるだけ出前授業を組織的に行われることが必要だと思います。１人の先生にあまり負担がかかりすぎてもいけませんし，むしろ組織的に動く，必ず１人１回は行かなければならないとか，行ってほしいというようなことが，組織的な取り組みでされるといいのではないかと思いました。

できるだけ地域に密着して地域の発展にということですから，今のめがねワクｗａｋｕコンテストなんかも，是非，今，太田先生が申されたような姿勢を保っていただけるといいかと思います。

さて，その他に何かご提言いただくようなことはございませんでしょうか。こうしたほうがいいとか。高専のあり方も含めて何かいいご提案を・・・。小島先生どうぞ。

（小島委員）

提言ということではなくて，毎回こうやって来て見させていただくと，高専の先生方，学生のサービス，クラス担任ですとかクラブ活動ですとか，それから大学では考えられない遠足ですとかね。先ほど学寮主事さんからお話ありましたように，寮も，我々大学というのは「住まう」という認識だけですけども，高専だと教育寮というような，大変ご苦労を感じます。それで部屋の充足率が９７％以上ですね。実態として，例えば入りたい学生が入れるような状況なのですか。そうじゃなくて選別をしているのですか。

（島田寮務主事）

入寮選考を行っております。

（小島委員）

かなり入りたがっているのを無視して入れてないのですか。

（島田寮務主事）

通学条件と申しますか，通学困難度によって入寮を許可しています。それを考えなければ，クラブ活動のために入寮したいとかいろんな希望が出てきますので，現在は例えば時間にすると９０分前後のところで線引きしています。ほぼ２４０名の定員いっぱいが４月１日以前はいるのですが，諸般の事情でやむなく高専から離れる学生もいるので，それで９８％ぐらいに落ち着いてきているのが現状だと思います。

（小島委員）

実は長岡も開学の時には全寮制にするつもりだったのですが，寮を造る前に学生を受け入れていますので，周りの農家の方に下宿屋をやってもらっていたので，途中で全部寮にするわけにいかないだろうということで寮を作るのをやめました。今となると入りたがる学生がたくさんいる

のですけども。ですから２年間しか置かなく大学院の学生は一切入れない。我々にしても本当は寮みたいなものを増やしたいのですが，国がそういう方針じゃないのです。ある意味で非常に困っているということなのです。

それからもう１つは，やはり経済的理由も含めて寮に入りたいということだと思うのです。だから我々はやっぱり少し奨学金制度みたいなものを作って何か考えたほうがいいのではないかと思っています。

それと，先ほどもちょっと話が出ましたが，例えば最近食堂をリニューアルしたとか，いろんなところを直してやろうなど，これからの学生サービスを考えておられる。我々もそうなのですが，その時の経済的経費は何か見通しがあるのですか。そういう改修費や何か。

（駒井校長）

当然これは機構があって，国にお願いするのが筋道です。それだけではいかないというところがありまして，ほんの小さな規模の工事ですが，昨年のように４０周年記念事業のような数１００万単位で募金事業をやっていることはやっております。それから，これは形としては望ましくないのですが，外部資金に対して本校はオーバーヘッドを申し訳ないですけれども課しておりましてこれも数１００万になりますか。それは学校としての使い道を考えて，例えば本校はまだ講義室に全部エアコンが入ってないので，昨年度は１年生教室に，今年度はもう付いているかと思いますけど５年生教室につける。これは１００万～２００万，数１００万の工事を細々とはやっております。本来は国にお願いすべきものです。

その点では，例えば視聴覚ホールという大工事の改修をしますが，これは３，０００万というお金をこの度処置していただきました。しかしそれは小規模であって，この本館が４０年経って何ら手が入っていない，これは１０億ぐらいもらわないとどうしようもなく，基本は国ですから国にやってもらうということだと思います。国立ですから。

（小島委員）

ご存知ないかもしれないですけれども，とにかく国は建物を造ってはくれるのですが，その後のメンテナンスは一切構わない。ペンキの塗り替えもしてくれない。しかし，これからは学生サービスもしなくてはいけない。例えば寮，昔のトイレは全部和式ですよね。それも一切洋式に直してくれない。今の子供は自分の家で和式なんか使っていないですし，まして留学生まで預かっているのに，国はトイレ１つ直してくれない。これは我々がちょこちょこ言っても始まらないことですね。

（児嶋委員長）

そうですね。しかし，やはり学生に対応するサービスをきちんとしていかないといけないですね。大変だと思います。ちゃんと食堂はきれいになられましたね。

（駒井校長）

これも自前なのです

（小島委員）
我々の学校でしたら，学長裁量経費でいろんなところを直そうとしていますよね。

（駒井校長）
したがって，研究と先生方に送られている研究費も減っておりますが，それをやむを得ず改修的なものに使わざるを得ないのです。

（小島委員）
ちょっと細かいことですけれども。先ほど専攻科のご説明をいただきましたが，志願者の数に比べて入学者，在校生の数が少ないですね。これは何か選別をやるのですか。

（大久保専攻科長）
学力の場合は，大学と専攻科を受けて両方受かると大学へ行く学生もいますし，JABEE を実施していますので，レベルの低い学生を不合格にしています。そうすることにより，そこそこのレベルで，向学心と意欲のある学生が集まってくるようになりました。

（小島委員）
それから今年の専攻卒業生が２６名で，２３名は就職していて，例年は１０名前後だというお話でしたよね。これはたぶん世の中の景気が良くなってきたということ，単純にそんなものですか。違うのですか。

（大久保専攻科長）
いろんな要因があると思います。ご指摘いただいたのも１つですし，もう１つは家庭の経済状況があまり恵まれていない学生が少なくない実情もあります。本当は県外の大学へ行きたいけれどもやはり学費がかかるので，授業料が大学の半分で，経済的なことを考えて専攻科に入学してきます。親の負担を考えて就職するようです。

（小島委員）
質問外のことで恐縮なのですが，校長先生にお知らせしたいのですけども，長岡技科大は専攻科を終って技科大の大学院に入る時には，専攻，各高専で１名だけですけど，入学料免除の授業料半額にしようと。そういう制度を 19 年度からやろうと思っているのです。

（駒井校長）
それは初めてお聞きしました。そうすると１名だけですけど相当経済的には負担は減りますね。

（小島委員）
そうです。

（大久保専攻科長）
あと，電気系の教員集会が長岡技科大でありまして，そこで長岡技科大の教員と高専の教員が

共同研究すると，学長裁量経費で高専の教員にも研究費がいただけるとか，長岡技科大の教員が学生を連れて学生の出身高専へ訪問すると，学生の旅費を大学で負担していただけるなどをお聞きしました。

（小島委員）

JABEE 関係しか出せませんけれどね。

（児島委員長）

それは結構なことですね。私は高専の意義は，大学進学への１つの大きいルートがあるということがメリットだと思います。それをむしろ生かしていただくのも，方向性の意味はあると思うのです。ですから長岡技科大さんに限らず，福井大学でもそういうのがあればありがたいと思いますね。

（小島委員）

さっきの寮の学生アンケートで，ほとんどの者が満足というか，いいとしていますが，１０％の不満というのは何をもって不満ですか。

（島田寮務主事）

細かいところまではちょっと調べていないのですが，寮内の人間関係とか，閉じられた空間であるという点が少しあるかもしれないですね。

Ⅵ　講　評

（児島委員長）

全体討論とご提言についてはそれぐらいで，あとは２０分弱，１人５分以内で何か今までお感じになったことを，それからこうしたらというような講評に入らせていただきたいと思いますが，よろしいでしょうか。最初は小島先生から辻崎先生，それから前田先生，野村会頭さん，最後私が締めさせていただくということで，講評をお願いしたいと思います。

（小島委員）

長 岡 技 術 科 学 大 学 長
小　島　　陽

先ほどから少し感じたことを述べさせていただきました。基本的には我々大学にとりましては，やはり高専というのは高校生から大学の２年生まで扱っているところ。非常に年齢の幅の広いところなので，先生が大変ご苦労をして，特に今回またいろんなご説明を聞きまして，いろいろな意味で大変頑張っておられるということが全体の印象です。

個人的な話になって申し訳ありませんが，私も最近いくつかの高専をいろんな意味で我々のＰＲも含めて少しまわらせていただいております。校長先生にもお話をしているのですが，やはり我が国にとっても高専生の資質というか，ものづくりということの技術，科学技術に，私としては非常に重要な素材であるので，我々がきちんとその受け皿として機能していかなければならないだろうと思っています。

あと，先ほどからずっと聞いていますように，寮ひとつとりましても教育寮というような観点，我々はちょっと想像もつかないような先生方のご苦労があるということが良くわかりました。それから，その上で更に近年学位授与機構の大学，高専の評価ですとか，JABEE ですとか，国があまりにもこういうことで少しやりすぎて，きちんとしたフィードバックがどんな形でくるのかと我々も少し危惧しています。

それから今日はちょっと話題になりませんでしたが，後５年間で人件費を５％減らすという細かいことですが，これは，校長先生にはずっしりと課題として残りますけれども，本来もうちょっと国が高等教育に対しては違う観点でやってもらわなければいけないのではないかと，そんなわけでございます。ちょっと今回とはずれたことを申しあげました。

あと，今日，中学校長会の会長さんも来られていますが，我々もどんどん高校に対して，中学にも若干ですけども，やはり理科離れの学生のないようになるべく努力をしています。具体的にはスーパーサイエンススクールですとか，それから我々は新潟県の高校の理科の担当の先生方を大学に集めてＰＲを行ったり，それからここでもオープンカレッジを複数回開催するとか，推薦制度とか，そのようなことで大変努力をされていますが，それも必要だろうと思っています。

それから今回新たにといいますか，海外のインターンシップというような言葉でだいぶ説明がありました。これからは国際化みたいなのがやはり重要になってくるので，それの一環として海外インターンシップなどというものも，今必要でないか。そんな風な感じでございます。

（児島委員長）

ありがとうございました。では辻崎先生何か全体の講評をお願いします。

（辻崎委員）

鯖江市中学校校長会会長
辻　崎　正　則

高専さんは地域に対して密着した教育そうしたテクニックに関しては我々も実感として感じているところです。特に今年度後半から具体化されました緊急メール配信システムについては，鯖江の小中学校のほとんどの学校が採用させていただき，私の学校でも先般第１回の緊急メールを配信したところです。非常にそういったことではありがたく貴重なサービスを提示してもらっていると，この場を借りてお礼を申しあげたいと思います。

また，担任制度，副担任制度を始め，生活指導の充実を図っているということで，私たちもありがたく思っています。現代の中学生は，卒業させたとはいえ非常に精神的面がまだ不安定な時期を抜けきっていない生徒が非常に多いわけです。これは高校の中退者の数などでも現れているところですが，高専の場合はそういう生徒が非常に少ないということを前回の説明でもお伺いしました。それは影でこのような生活指導の充実を図っている成果であると，今日改めて感じました。我々卒業して行った後の生徒たちの行く末もいろんなことで気にはなるわけですが，なにしろ中には家庭的に非常に不安定な生徒もいないわけではありませんので，そういったもののきちんとした指導もしていただいています。このような地域に対するサービスとか，生徒の指導等今後とも努力していただけることをお願いして私の講評とさせて頂きます。

（児島委員長）

ありがとうございます。前田さん何かないでしょうか。

（前田委員）

福井県工業技術センター所長
前　田　政　見

技術行政を担当するものの施設として申しあげます。この地域連携テクノセンターを中心に，地域貢献ということで非常に応援していただき，まことにありがとうございます。大きく分けまして，技術支援ということで，伝統産業支援室，地場産業支援室を立ち上げられまして，とりわけ丹南に密着した技術支援ということで，努力をされているということを承知しているわけでございますが，今日，見せていただいたことも含めまして，福井高専単独ですべての企業さんの技術相談にお答えできるかというと，なかなかそうことばかりではないかと思います。そういう意味におきまして，是非とも私どもの仕事でございます工業技術センターと連携を取りながら丹南企業の技術支援にお答えしていけたらと思っていますのでよろしくお願いいたします。

それからもう１つ研究ということですが，福井高専には，県の基幹技術の創造というようなことで，いろんな形で大型プロジェクトにご協力をしていただいています。そういうことで，それ以外でも共同研究，受託研究を活発にやっておられるということです。そんなことで福井高専の大きな役割，使命というのは，あくまでも次代の，次の代の産業人材を育成，配置するということでございますが，研究ということにつきましても高専さんの教育といいますか，授業の中でしっかりと位置づけていただけたらと思っています。

（児島委員長）

ありがとうございました。では野村さん。

（野村委員）

鯖江商工会議所会頭
野　村　一　榮

地元の越前市も鯖江市も商業の町ではなく，やはりものづくりの町で栄えなければならないと思っています。それで，今，我々地元では２つの方法がありまして，１つは地場産業の眼鏡製品の技術を生かして異業種へ進出できないかということが１つ。もう１つは，その技術を生かして新産業を作ろうという新産業の創出ということの２つの課題に今，取り組んでいるわけです。

そういう中で，若者が地元でのものづくりに挑戦するという意識を持ってもらわなければ将来性がないということになるわけですが，そういう意味では丹南地区は全国から見て，「なぜあそこはものづくりが栄えるのかあるいは金属加工業が栄えているのか」という，それは福井高専があるからというように将来は是非なってほしいなあと思っています。

だからそういう意味では，福井高専と地元との連携というのは非常に大事ですし，特に今まで申しあげましたようにものづくりの町ですから，特に高専との関係というのは深いものにしていく必要があるし，我々もいろんな意味で全面的に応援もさせていただかなければならないと思っています。

今ほどから政府の財政難が厳しい中で，いろんな我々の注文が多いわけですが，我々経済界とさらに連携を保つことによって，わずかでも応援をできるのでないかなと思います。そういう意味では是非この丹南地区は高専があるからものづくりが栄えるというような町になって欲しいと思いますし，我々もものづくりが栄える町になっていかなければならないと思っていますので，ひとつよろしくお願い申しあげたいと思います。以上です。

（児島委員長）

はい，ありがとうございました。私の方のコメントと総括とさせていただこうと思います。

私の思うに，まず認証評価を最初に受けられて，しかもなんら改善点も指摘されずに立派な認証を受けられたことを高く評価したいと思います。そして，また JABEE も全て本科ならびに専攻科の両方ともきちっと評価されたということも，これも大変なことだと思います。教育，研究，大変なご努力を傾けられていることは非常に素晴らしいことであって，駒井校長を中心に福井高専が大変元気であるということを私も大変嬉しく思います。ありがたいと思います。

福　井　大　学　長
児　嶋　眞　平

法人化になって３年目ですか，随分苦しいことが出てきそうでありますが，福井大学も大変なのですけども。特に運営交付金がだんだん減るということが，しかも人件費を削減しなければならないという，これは大きな壁のように立ちはだかっていると私は思っています。今後，人件費削減に対応するのは先生方，教職員一丸となって取り組んでいただくしかないかと思いますね。なかなか省力化するというのは難しいです。しかも省力化すると，教育がうっかりすると上げ底になってしまうという非常に大きな矛盾があります。先生方の数はまさにマンパワーであって，そのマンパワーを減らすことによって教育が悪くなるという非常に大きな危険を伴うわけです。

しかし，行財政計画で５％削減。これは非常に難しい問題で，私どももどうしようかと言っているのです。できるだけ無駄なところを削減していこうという選択と集中だと言っているのですが，細かいところになってくると，ここを削減するとなると削減するところが当事者の先生方から大変な反対があってなかなか難しいところがあるのです。なんとか選択と集中で，あるいは効率的な教育，研究，特に教育のほうを効率的に行うことは本当に難しいと思いますね。これから具体的で長期的な視点で，人件費削減という非常に困難な課題に駒井先生を中心に取り組んでいただきたいと思います。

そしてまた人件費削減をしたことによって教育研究，あるいは社会貢献が落ちないようにという相反することにこれから対応していただく必要があるわけで，ただでさえ先生方，今までJABEE も含めてお疲れになっているところ，小島学長先生もおっしゃったように，お疲れになって，評価疲れということもあろうかと思いますが，個々の先生が今まで以上に１．１倍か１．２倍ぐらいより頑張っていただくということしか切り抜ける方法がないのではないかと思っています。どうか駒井先生を中心に，どういう風に人件費削減を乗り切っていくかということをご議論いただけたらと思います。もちろん，そういうことはお考えになっていると思いますけれども，私どもも頭を悩ましているところです。非常に難しいところですね。

それからもう１つ研究費につきましても，今年も本当に科研費トップはすばらしい事ですが，なおかつ，産学連携にとっても非常によく取り組んでおられますので，どうか福井大学とも今までも本当によく連携していただいていますが，これからも我が福井大学ともより連携協力を強めていただきたいと思います。例えば地域結集型の研究につきましても，太田先生，安丸先生が大変積極的に参画していただいたと思います。その結果，ああいう非常にユニークなといいますか，いい結果を出されましたし，それから安丸先生のご研究は非常に面白い研究で，デバイスの方にもいけそうだというようなこともあります。ああいう研究も含めてこれからどんどん産官学連携に，本学，我が福井大学とも連携して頑張っていただきたいと思っております。

それから，後は本当にいろんな意味で頑張っておられるので，私ももう何も特にコメントすることはございません。あまりにも一生懸命やっておられるので感心するばかりで，どうか先生方のこれからのご活躍といいますか，ご尽力を期待したいと思っています。以上で私のコメントといいますか講評であります。もう本当に素晴らしいというしかないと思っています。これからもどうか駒井先生を中心に頑張ってください。お願いしたいと思っています。

それでは何か特にお一言もうございませんでしょうか。地域連携を更に強化していただくということも今日の大きな課題の１つかとは思いますけれども。

それでは一応講評はこれで終わらせていただこうと思います。

では最後になりましたけれども，駒井先生から謝辞をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

〇駒井校長謝辞

本日，午前，午後と評議員の皆さんにはお忙しいところ時間を取らせまして恐縮しております。午前中の説明に続きましてご見学賜り，そして最後はいろいろと貴重な励ましの言葉を頂戴いたしました。今日頂きましたご意見を参考といたしまして，これから本校の運営に生かしていきたいと考えております。まさに難局が待ち構えておるわけでございます。国立の高等教育機関のどこもそうでございます。大変な難局でございますけれども，これは嘆いていても始まりませんし，それに立ち向かって現状を切り開いていく，将来を切り開いていくしかございません。また努力したいと考えております。今度ともよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

Ⅶ. 参考資料

平成17年度第1回
福井工業高等専門学校評議員会
平成18年3月27日

本校の概要説明

第1回評議員会（平成16年9月）以降の推移

- ✓「個性化」、「活性化」、「高度化」の力量の実証：平成17年度JABEE認定校、話せる英語の習得(専攻科修了要件としてTOEIC400点以上を全員に課している)。
- ✓ 福井高専の魅力を増す努力：平成17年度から工学基礎コースを設置、 1年全科共通科目としての「ものづくり科学」新設
- ✓ 地域貢献：平成17年5月に「包括的学市連携協定」を締結、伝統産業支援、地場産業支援
- ✓ 産学連携教育：平成17年度現代GP「越の国、ひとづくり・まちづくりコミュニティ」

第1回評議員会以降の推移

- ✓ 平成17年10月：創立40周年記念式典を挙行するとともに、記念事業を実施中
- ✓ 平成17年11月：大学評価・学位授与機構による認証評価を受審し、基準を満たしているとの通知
- ✓ 平成17年12月：高専ロボコン全国大会にて、本校の下司MAXが電事連特別賞を受賞

これからの福井高専

- ✓ 少子化のなかでの入学志願者の確保：平成16年度＝1.8倍、平成17年度＝1.81倍、平成18年度＝1.7倍、平成19年度入試では入試会場を広域化。
- ✓ 人件費削減への対応：平成18年度より5年間で人件費を5%削減しなければならない。大学単位導入、助教の講義・演習担当
- ✓ 時代の要求に応じた学科内容の見直しと専攻科の拡充
- ✓ PDCAサイクルの遵守

教務関係

福井工業高等専門学校の使命

1. 創造性豊かな人材の育成
2. 幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
3. 高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
4. 環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
5. 地域と連携した産官学共同研究の推進を図る

学習・教育目標

福井高専の学習・教育目標

学習教育目標

A. 倫理・ものづくり
B. 工学・専門技術
C. 創造・デザイン
D. コミュニケーション
E. 実践・論理的思考

- 携帯版学習教育目標

福井高専

- 福井高専

学習・教育目標

A. 地球的視点の技術者倫理を意識した、ものづくり・環境づくり、システムデザイン能力の育成
B. 幅広い工学的素養、得意とする 専門技術の基礎能力および応用能力の育成
C. 豊かな創造力と デザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
D. 高度に情報化した国際社会で 必要なコミュニケーション基礎能力と プレゼンテーション能力の育成
E. 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力 および論理的思考能力の総合的な育成

この学習・教育目標は、2004年度 JABEE 受審のために、JABEE認定基準2004年度版に基づき、『全ての専攻科学生が修了時に達成できる目標』(Outcomes)を定めています。

シラバス

科目名: 応用物理学　科目コード: 8Z101 [Applied physics]

必修　2年 専攻科共通　開講期: 前期　2単位　講義　担当教員: 大田 泰雄

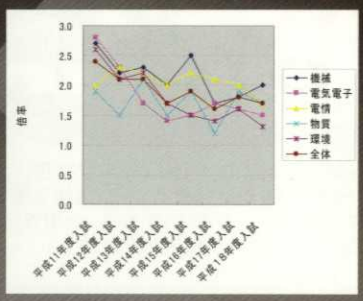
【授業目標】高等物理、応用物理(工学基礎物理)を中心にこれらを基礎として、さらに、固体物理などを中心に最近の電子工学、機能性材料などについて講義をする。また、固体物理の説明は量子論、量子力学の立場からやや詳しく説明する。

【授業の概要と方法】各単元ごとのまとめの配布し、それにしたがって授業を進める。とくに、最近、ときなる物理学に学生の興味を向けさせる工夫をしたい。高天の説明(最近)、専門書の読み方も進める。

週	授業項目	授業内容
第1週	授業概要、量子論	シラバスの説明、問題紹介、光電効果、ボーアの理論
第2週	物理現象と実在性説	光線の圧力、マクスウェルの速度分布則
第3週	原子を結びつける力	原子の配列、ファンデルワールス力、共有結合、金属結合
第4週	結晶の構造	結晶と不晶体、結晶構造(格子)、格子定数
第5週	格子原子の熱振動	弾性波、格子振動
第6週	格子振動による比熱	固体の比熱、デバイ温度
第7週	金属の自由電子論	金属の特徴、金属の電気伝導、金属の熱伝導
第8週	固体内電子のエネルギー	結晶内電子のエネルギー状態、ブリルアンゾーン
第9週	半導体	半導体の諸性質、半導体の電子構造

学生の受け入れ(オープンカレッジ)

学力試験倍率



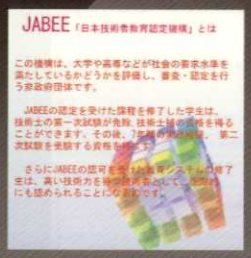
工学基礎コースの設置

平成17年度より実施のProject-based Learning (ものづくり科学　必修3単位)

平成16年度に試行した「ものづくり科学」授業の様子

平成17年度より、「工学基礎コース」を中心にPBL授業を1年生で実施。各学科の基礎的研究テーマを選び、チームを結成して現象のしくみの解明に取り組む。研究結果はプレゼンテーション、ディベートを行って発表する。実験方法や調査項目などは学生自身で決めて進める。これにより、学生の学習意欲向上、各学科の専門教育への導入、計画立案・遂行能力の向上、プレゼンテーション能力の育成をめざす。

日本技術者教育認定機構(JABEE)受審認定



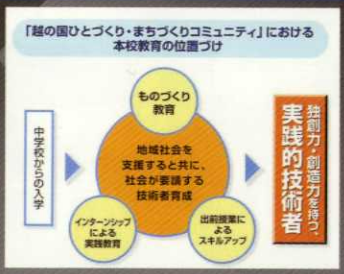
地域に対する支援

地域連携協定の締結(平成17年5月)

現代GP

現代GP(Good Practice)は、平成16年度に文部科学省が創設した「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の略称です。 平成17年度は，全国で509件の申請があり，84件が採択されました。

福井高専と地域連携



和紙産業との共同研究、インターンシップ

隣接する今立町は、平安時代より和紙製造では、全国屈指の産地となっており、「越前和紙」として有名である。本校では、和紙材料の保存方法と、廃液の微生物を用いた処理方法に関する共同研究を行っている。また、これらの研究を学生がインターンシップとして参加し、教育的にも成果を還元する。

眼鏡産業との共同研究、アイデア募集

鯖江市は世界で最も大きな眼鏡枠製造集積地帯となっており、眼鏡枠の国内生産額の90%以上近くを占め、生産額は1,000億円近くとなっている。本校では眼鏡に関するアイデアコンテストである、「めがねwakuワクコンテスト」を平成１６年度より全国の生徒・学生対象に開催している。また、眼鏡枠材料に関する共同研究も行っている。

サイエンスの達人たち

地域の教育委員会と連携して、多数の学生・教員を出前授業（サイエンスの達人）で地域の小・中学校に派遣する。出前授業は機械工学科の「ロボット」、電気電子工学科の「燃料電池を作ってみよう」、「ソーラーカー」、環境都市工学科の「ブリッジコンテスト」などである。学生は教えることによって内容に理解を深める。

平成１７年度機関別認証評価の受審

認 定 証

学生関係

学 生 と 担 任 制 度

- ✓学生生活全般の指導（友人関係、生活行動の把握（欠課，欠席の点検）、各種届け出指導等）
- ✓学業成績、悩み等についての個別指導
- ✓特別活動の企画・実施（1～3年）
- ✓学校行事の指導・企画・引率
  オリエンテーション（1年）、遠足（1～5年）、校外研修（2年）、工場見学旅行（3年）、校外実習（4年）、卒業研究発表会（5年）
- ✓進路（就職と進学）指導（5年）
- ✓保護者懇談会の実施（1～5年）

中期計画の中の担任制度

- ✓担任・副担任制度の継続
  →学生に対するきめ細やかな対応（特に低学年）
  校門指導等の強化（H16年度開始）
- ✓学年主任制度の導入
  →進路指導の強化；高学年（H16年度開始）
  →混合学級への対応；低学年（H17年度開始）

学校行事①:様々な体験活動の継続

- ✓新入生オリエンテーションキャンプ（1年）
- ✓遠足（1～5年）、校外研修（2年）、工場見学旅行（3年）、校外実習（4年）、卒業研究発表会（5年）

豊かな自然の中で行う新入生オリエンテーション

学校行事②:学生会活動の奨励

- ✓ 体育祭(5月)
- ✓ 弁論大会(10月)
- ✓ 高専祭(10月)

課外活動①:クラブ活動の奨励

✓ 元気なクラブ活動状況

- ・クラブ数:体育系20サークル、文化系16サークル
- ・学生加入数:約700名、顧問教員数:53名
- ・H17年度北陸地区高専体育大会
  優勝(団体):野球、水泳、バレーボール(女子)
- ・H17年度全国高専体育大会:野球3位、水泳2位(個人)

体育系部:陸上、水泳、野球、サッカー、ラグビー、バレーボール、バスケットボール、テニス、バドミントン、ソフトテニス、卓球、ハンドボール、剣道、柔道、ソフトボール、空手、少林寺拳法、合気道

文化系部:ブラスバンド、モダンミュージック、写真、囲碁・将棋、英語、エレクトロメーキング

課外活動②:コンテストの奨励と支援

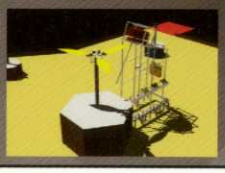
✓ ものづくり関連コンテストの奨励
→ロボコン(特別賞)、プロコン(敢闘賞)、デザコン、Robo-ONE、パソコン甲子園、ふくいソフトコンペ等

高専ロボコン「大運動会」では、ロボコン史上初のジャンプでハードルを越えるアイデアで特別賞を受賞!

課外活動③:夢づくり工房プロジェクト

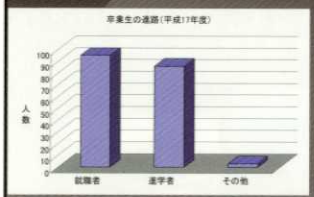
✓ 夢づくり工房(ドリームラボ)(H17年度)
:ものづくり多目的スペースを工場内に新設
ロボコン、Robo-ONE(2足歩行ロボット)、
ものづくり関連実習・演習、実験、卒研

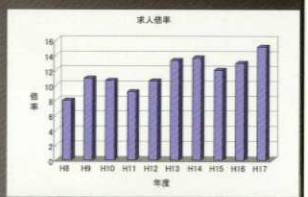
✓ ロボコン用ホームページの開設(H16年10月)
:過去の戦歴、
ロボットのデモ活動、
3Dアニメーション、
QTVR等



卒業生の進路:2年目の進路指導委員会

✓ 進学者の増加と高い求人倍率(平成17年度:15倍)





中期計画:安全管理の強化

✓ クラブ活動の安全管理を主とした指導マニュアルの作成
(H16年4月)

✓ 課外活動危険箇所調査と安全面を重視した環境の整備
H17年度例:AED(自動体外式除細動器)設置
野球フェンス改修

✓ クラブ活動の安全管理に関する講習
① H16年7月:学生指導担当職員研究会
「クラブ活動における安全管理を中心とした指導について」
② H17年7月:学生指導担当職員研究会
「救急救命法:実習主体」

AED実習風景

中期計画：メンタルヘルス関連

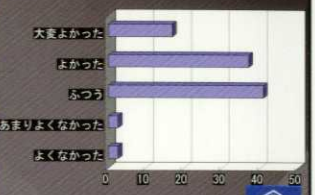
✓ 学生指導担当職員研究会の開催
→ H17年7月：メンタルヘルス関連の講演会
「高専生のメンタルヘルス」

✓ メンタルヘルス関連アンケートを全学生対象に実施
→ H17年11月：学生相談関連、生活実態調査（インターネット利用状況、朝食、睡眠時間等）

✓ 報告書の作成
→ H18年3月：学生指導担当職員研究会・ボランティア活動報告書の発行

中期計画：ボランティア関連

✓ ボランティア活動の奨励
→ H17年10月：第2回クリーン大作戦（180名）



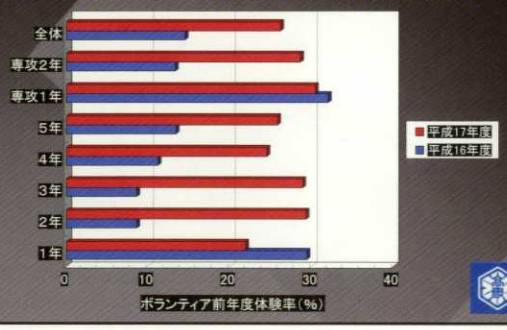
よかった理由：「ありがとう」と言われたこと

サイエンス夢ボランティア

✓ 福井県のボランティア体験事業に参加（H16年度より）
→ ものづくり関連でロボットのデモ・操縦体験、
環境づくり関連で環境学習ボランティア事業を展開

ボランティア体験率の増加

（1年以外の全ての学年で2～3倍前年度の体験率が増加）



寮務関係

福井高専学寮

学寮は「青武寮」と称し、南寮・北寮・東寮の3棟からなり、東寮には女子寮が併設されている。

定員は240名である。

遠隔地からの入学生に修学の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いに敬愛啓発し、人間形成を図るという目的で設置されていることから、全教員が交替で寮監として泊り、寮生との触れ合いを大切にする教育寮として位置付けられている。

管理運営組織

学寮の施設－1－

南寮・・・昭和41年建設→平成8年新設（75名全室個室）

各階トイレ・洗濯室
補食談話室（キッチン・冷蔵庫・TV等）

留学生（17年度7名）用
シャワールーム
ウオッシュレットトイレ
交流室等完備

学寮の施設－2

北寮・・・昭和42年建設→平成6年改修（75名一部2人部屋）
東寮・・・昭和45年建設→平成5年改修（90名全室個室）

北寮

東寮（3･4階女子寮）

学寮の施設－3

付属施設
《管理事務室・寮監室・駐輪場・ボイラー室等》

食堂

男子浴室（女子用も）

学寮の施設－4

図書室兼自習室

パソコン設置
（インターネット可）

息抜きのスポーツ施設

これまでの経過と課題

充足率が低迷の時代
→ 学寮棟の改修や新設《個室化》
女子学生の増加
→女子寮生の受け入れ《女子棟改修》
→充足率の上昇

より充実した寮生活を！→ 学寮中期計画

北陸地区高専学寮充足率の比較(H.15)

高専名	定員	現員	充足率
福井	240	234	97. 5
富山	163	136	83. 4
富山商船	419	299	71. 4
石川	252	245	97. 2

福井高専学寮充足率の推移

年度	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
充足率	97.5	97.9	98.3	97.5

学寮運営の改善(中期計画)

①居住環境の整備
②学寮運営に対する寮生・教職員の協力体制の充実
③より緻密な寮生指導
④その他(H.Pの開設)

①居住環境の整備

改修から約10年

→施設の点検と整備
＊寮生会と学寮関係教職員との「懇談会」の開催
情報収集と意見交換
食堂床・壁等の改修とエアコンの設置，
壁紙張替え，網戸・雨漏り箇所修繕，
ベッド・机の更新等

②学寮運営に対する寮生・教職員の協力体制の充実

↓

・寮生会役員との緻密な交流
「懇談会」の開催
・寮生手帳・寮監マニュアルの改訂完了

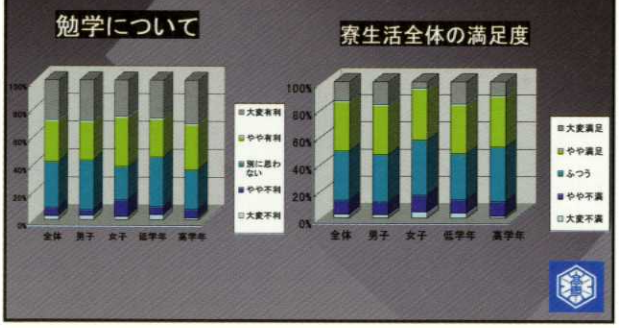
③より緻密な寮生指導

・低学年寮生との懇談会
寮務主事・各学科・教室寮務主事補
(寮務主事団) による懇談会
・留学生との懇談会
・行事の改善等
文化的な行事(テーブルマナー講習会・
文化講演会)等の開催

学寮年間行事等(平成17年度)

4月 7日　入寮式 開寮
4月20日　新入寮生歓迎会・寮生総会
4月26日　第1回学寮運営委員会
5月13日　教員長等指導者交流研修(寮務主事・主事補・学生19名(計12名)先輩)
5月14-15日 寮祭
5月17日　一年生ミーティング
5月24日　寮生会と寮務主事団の懇談会
5月29日　日野川川巾清掃ボランティア6名参加
5月下旬　寮生運動防止キャンペーン(中間試験終了まで)
6月20～26日　早朝ソフトボール大会
5月～7月　新入生全クラス別ミーティング
7月 8日　第2回学寮運営委員会
7月12日　大掃除(寮生会)
7月14日　保護者懇談会
7月11日　寮生調査点検
7月19日　問寮
7月20日　主事四所室点検
7月27日　学生指導担当教職員研修会(救急救命法・主事・主事補4名・係長計6名が参加)
8月下旬　第3回学寮運営委員会(持ち回り審議)
8月28日　調査
9月1日　学寮防災訓練・寮生総会
9月21～28日　早朝バレーボール大会
9月中旬　第4回学寮運営委員会(持ち回り審議)
9月29-30日平成17年度東海北陸地区高等専門学校厚生補導関係主事及び学生課長会議
9月末　第5回学寮運営委員会
10月13-14日　学寮アンケート実施
10月14日　40周年記念事業実践(棟田理事長・河野企画官他1名)
10月18日　第6回学寮運営委員会
10月26日　寮生懇談会
11月1日　認証評価訪問審査
11月14日　寮生会役員との懇談会
11月28日　第7回学寮運営委員会
12月6日　文化講演会「専攻科・大学院を経験している中で」馬場孝彰氏(福井大学大学院)
12月15日　クリスマス会・平成18年度入寮者募集要項掲示
12月19日　閉寮点検・寮生会役員改選・寮生総会
12月20-21日　各区清掃(寮生会)・1年生清掃
12月23日　閉寮
1月17日　テーブルマナー講習会(3学年)：シティホテル
1月23日　第8回学寮運営委員会
1月31日　第9回学寮運営委員会
2月16日　5年生を送る会
2月下旬　平成18年度入寮1次許可者発表
3月2日　平成18年度入寮2次許可者発表
3月9日　部屋換え(居室点検)・寮内清掃(寮生会)
3月11日　閉寮
3月16日　第10回学寮運営委員会

学寮アンケート調査



④その他(学寮からの情報発信)

ホームページの充実

専 攻 科

専攻科制度

本科の上に2年間の教育課程
大学評価・学位授与機構の審査により学士号取得

定員(1学年)
生産システム工学専攻(12名)
環境システム工学専攻(8名) 計20名

修了要件
62単位以上の修得
「環境生産システム工学」の学習教育目標をすべて達成

学生数

在籍者数
1年生:26名　2年生:26名　計52名

志願者数
H16:34名　H17:35名

修了者数
H16:29名(JABEE修了:20名)
H17:26名(JABEE修了:26名)

就職・進学

修了者数:26名(JABEE認定:修習技術者)
求人倍率:13.5倍

就職先(県内就職:13名)
江守商事, 福井コンピュータ,日東電工, 島津メクテム等

進学先
名古屋大学大学院, 金沢大学大学院, 豊橋技科大学大学院

技術者教育

「環境生産システム工学」の教育プログラム
（JABEE認定プログラム）

約1ヶ月のインターンシップ（伝統産業,地場産業企業）

9科目で各1～3回の授業の非常勤講師
（技術士，弁理士，NPO理事長等）

北陸技術交流テクノフェアの参加・見学

特別研究の成果

技術シーズ発表会（鯖江商工会議所）

国際会議で発表（International Conference on Luminescence）

学生発！ふくいビジネスプランコンテストにて　優秀賞受賞

教育研究協定

福井大学大学院工学研究科
ファイバーアメニティ工学専攻と専攻科

平成18年2月10日締結

講義および共同研究
学生，研究者の交流
情報，資料の交換

専攻科と本科の連携

総合試験（数学，物理等）の本科生の受験

TOEIC-IPテストの本科生の受験

TOEICスコア400点以上で入学試験（学力試験）英語の試験免除

厚生・補導

TOEIC高得点者を表彰
（最高735点）

海外インターンシップ
（University of California　San Diego）

専攻科生の懇談会（年2回）

第1回評議員会

JABEEに関する説明

2006.03.27

- JABEEとは
- 環境生産システム工学プログラムの内容

認 定 証

福井工業高等専門学校専攻科

プログラム名：環境生産システム工学

工学（融合複合・新領域）関連分野

認定開始年度：2004年度

2005年5月12日

日本技術者教育認定機構

会長 吉川 弘之

JABEEとは

- 日本技術者教育認定機構
  現会長 大橋秀雄氏(2005.06)
- Japan Accreditation Board for Engineering Education
- 設立 1999年11月19日（経団連要請）
- 技術系学協会と密接に連携して技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体
- 2005年6月にWashington Accordに正式加盟

JABEE認定制度とは

- 大学等（含高専＋専攻科）高等教育機関の技術者教育プログラムについて
- (1) 社会の要求水準を満たしているか？
- (2) 国際的な水準(Washington Accord)を満たしているか？
- 外部機関が公平に評価する
- 水準を満たしている教育プログラムを認定する(Professional Accreditation) 制度
- 96高等教育機関の186プログラム認定

JABEE基準

基準１　学習・教育目標の設定と公開(Plan)

基準２　学習・教育の量(Do)

基準３　教育手段(Do)

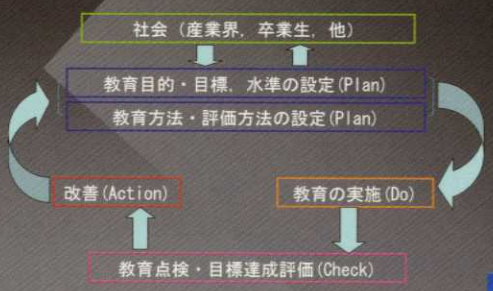
基準４　教育環境(Do)

基準５　学習・教育目標の達成(Check)

基準６　教育改善(Action)

補則　分野別要件

教育の質の向上と継続的改善



福井高専プログラムの内容

プログラム名：環境生産システム工学

教育組織：本科5学科（4，5年）と専攻科2専攻

専門分野：工学（融合複合、新領域）関連分野

目指すエンジニア像：地球的視点の倫理観を持ち、「ものづくり」と「環境づくり」に関する能力と、多様な「システム」を理解し創造的に「デザイン」する能力を身につけた、国際社会で活躍する実践的技術者

プログラムの特徴

- 5学科2専攻を「融合複合」
- 設定している学習・教育目標の数が多い：大項目が5、小項目が35
- 多様な達成度評価方法：単位修得，達成度ポイント，外部試験など

達成度評価方法

- 地球的視点の技術者倫理：技術者倫理，環境工学，地球環境
- ものづくり・環境づくり能力：達成度ポイント
- システムデザイン能力：達成度ポイント

達成度評価方法

- 創造力，デザインマインド：創造デザイン演習，先端材料工学，ものづくり情報工学
- 国際的コミュニケーション能力：TOEIC
- プレゼンテーション能力：外部発表
- 実践的能力，論理的思考能力：インターンシップ，卒業研究，特別研究

指摘事項

意欲的なプログラムであるので，その継続性を確認する必要がある．

スパイラルアップを行いながら
次回審査の準備をしております．

第１回評議会以後の教育・研究改善

平成16年9月開催、評議会における提言

1. 今後、大学への編入が増えてくるときに，専攻科をどのように運営していくのか。大学院への進学を増やすのか，就職なのか。
2. 産学官の連携・共同研究は大事であるが、それを中期の事業計画の中でどこが産学官連携かはっきりしない、あるいは独創的な技術者・研究者の育成が、中期計画の中にあまりうたわれていないのではないか。
3. 英語力の強化を期待する
4. 女性が人口の半分を占める中、女性の職業教育ニーズにいかに応えるか。
5. 教育環境の整備

1．本科から専攻科への進学と連携

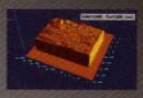
（1）本科学生の進学に対する意識は多様であり、現在の本校専攻科入学倍率も高く、問題はないようであるが、今後、本科、専攻科が本科からの進学に連携を深める。

（2）本科の進路指導を十分行うとともに、専攻科の魅力をさらに充実させる。

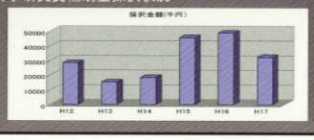
（3）本科、専攻科学習内容の複合融合をさらに進める。

2. 産官学の連携・共同研究は大事であるが、それを中期の事業計画の中でどこが産学官連携かはっきりしない、あるいは独創的な技術者・研究者の育成が、中期計画の中にあまりうたわれていないのではないか。

1. 地域結集型共同研究，都市エリア型共同研究などに対する取り組み



2. 科学研究費補助金採択状況



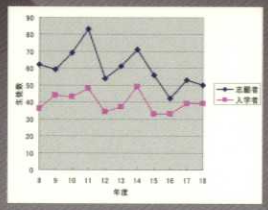
3. 英語力の強化を期待する

TOEIC400点以上の実力を身につける教育の推進

高学年における習熟度別授業の実施

交換留学制度の実施（平成18年度）

4. 女性が人口の半分を占める中、女性の職業教育ニーズにいかに応えるか。



女子学生志願者と入学者の推移

5. 教育環境の整備